総合　総合の課題１４部会

少子高齢・人口減少社会を支える子を育む総合的な学習の時間の課題

―焼津市立焼津南小学校と富士宮市立大宮小学校の実践を手がかりに―

焼津市立焼津南小学校　○新村　弘道
富士宮市立大宮小学校　　米津　英郎
静岡大学教育学部　　馬居　政幸

１．研究の目的

本研究は、総合的な学習の時間の問題点を提示し、少子高齢・人口減少社会を支える子どもを育む総合的な学習の時間の課題を明らかにすることを目的とする。

２．研究の方法

本研究では、まず各種データーをもとに今の小学校高学年が社会を担う壮年期（壮年中期）となる２０３０年の社会の状況を提示する。次に、現状の総合的な学習の時間の問題点を指摘する。それらをもとにして、モデル授業として試みた小学校第６学年の授業実践を示し、少子高齢・人口減少社会を支える子どもを育む総合的な学習の時間の課題を明らかにする。

３．研究の内容

子どもたちが壮年期（壮年中期）となる２０３０年の日本は、多様な価値観やライフスタイルが並存する社会となるだろう。現在でも国際化や個性化による価値の多様化は進行しているが、２０３０年はさらに進行した社会になっていると考えられる。価値の多様化やライフスタイルの変化は、環境問題や食料問題、経済のグローバル化の問題、IT 化の問題を一層深刻化させる。

２０３０年の日本を考える上で最も重要なことは、少子高齢・人口減少社会となっている点である。少子高齢化は人口減少に直結し、人口減少はライフスタイルや社会構造の変動を起こす。そして、解決困難な課題を生じさせると予想される。経済の停滞や社会保障制度の崩壊、家庭・地域の変容等である。家族においては介護の担い手や子どもの減少による社会性の育成が課題となる。さらに、男女共同参画社会の理念のもとでは、男女が共に働き、同時並行で育児や介護を行わなければならなくなり、戦後の典型的な家族像（会社員の夫と専業主婦と二人の子ども）では、解決不可能となる。２０３０年の社会を生きていくためには、社会構造や社会保障の改革だけでなく、新しい価値観が求められているのである。そして、その価値観を育成するのは学校教育であり、総合的な学習の時間であると考える。

総合的な学習の時間が完全実施され、数年が経過した。この学習は、よりよく問題を解決する資質や能力を育成することや自己の生き方を考えることをねらいとして、現行の学習指導要領から導入された。だが、総合的な学習の時間には課題が多く、創設のねらいを達成しているとは言い難い。その理由は二つある。一点目は、総合的な学習の時間の目標を明確にせずに行っている学習が多く存在することである。二点目は、少子高齢社会を見通した学習であっても、車椅子やアイマスクなどの体験的な活動で終始してしまっていることである。

そこで、総合的な学習の時間の目標を明確にして、少子高齢・人口減少社会を生きていくために必要な資質や能力を育成する必要があると考えたのである。そしてその目標を、少子高齢、人口減少が進行する背景や社会保障制度への理解を図り、他者の行動や考え方を理解し貢献しようとする愛情を育て、社会の一員として必要な資質や能力を養うと設定した。

本研究では、このことを検証するためモデル授業として取り組んだ小学校第６学年の実践を報告する。この実践では、観点別の目標を設け、より目標が明確になるようにした。

これらを通して、少子高齢、人口減少社会を支える子を育む総合的な学習の時間の課題を明らかにする。

４．結論

本研究で明らかになったことは、授業者が子どもの生きる社会を想定して目標を作成し、観点を明確にすることは、少子高齢、人口減少社会を支える子どもを育むことができるということである。有効であった。

これからは、教科との関連を視野に入れて、少子高齢、人口減少社会を支える子どもの育成に取り組んでいく。今後の課題とする。

結論部分はカットして、具体的な実践の内容を紹介する。

最後に、「この実践を通じて明らかになった成果と課題については、発表時に資料とともに提示する。」と記して、先送りするのではいかがですか。